

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス きらり庵		公表日		2025年 3月 17日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	90%	10%	事業所の課題である部分は職員間で話し合い、役割を位置づけて改善に努めた。	パート職員と定期的に共有する時間を設けられなかったため、次年度は3ヶ月に1回会議を設けて支援の統一を図っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	評価表から毎年希望があったがコロナ渦でできていなかった、保護者会を開催できた。	児童館との交流できるような機会は設けられていないため、他放デイと連携したり情報を得ながら交流できる機会を設定していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	日々の申し送りを行い、情報共有を行っている。また個別ケースから本人理解、課題、支援方法の検討を行うこともできた。	職員会議や支援会議が定期的に設定できていなかったため、次年度は毎月の開催を行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		法人内、外で行われる研修に積極的にみんな参加できた。初めて県外の研修に全員で参加できたこともよかった。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	80%	20%		1人ひとりのケース全てを深く分析するところまで追いついていないため、計画性をもって今の発達段階・成長段階を分析し、将来を見据えながらスモールステップを積み重ねられるように検討していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		1人だけの視点ではなく、色んな支援者の目線からみた本人像を共有し、本人の思いや願い、課題に向けて考えることができた。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			支援に入る前にその日の支援計画を知った上で、配慮する点や気をつける点などを周知し支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	70%	30%		研修などで学んでいるが、アセスメントシートをこまめに活用できていなかった。行動分析をする際や少し立ち止まって成長段階を確認するツールとして積極的に使用していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		日々の活動はチームで検討し、休日や長期休暇の際は担当を決め、担当が主となって計画・実行をみんなに呼びかけている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		意図的に固定化している活動もあるが、保護者参加型の活動を計画したり、1人ひとりが主役となり発表する場（フェス）を計画するなど、チームで参画しながら思考している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		選択肢ができるように、本人の意思を尊重している。文字盤や絵カード、写真などを用いて、1人ひとりの理解度に合わせて提示している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	80%			ケース会議や市の発達支援センター主催の会議などで連携できるような体制になりつつあるが、まだまだこれからである。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		就学前に利用していた児童発達支援事業所と情報共有を行ったケースはある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		保護者の了承を得て、情報提供を行ったケースはある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	80%			助言というよりは情報共有するケースが多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	100%		地域の図書館や公園を利用する際に関わる機会はあるが、同じ目的で活動することはできていなかった。他放デイと連携を図ったり、情報を得ながら一緒に活動できるように努めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		100%		時間の兼ね合いもあり、定期的に参加できなかった。情勢や市の課題などを情報把握できるように、積極的に参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	90%	10%	良い姿をたくさん伝えながらも、課題となっている部分も伝えるようにしている。本人の思いや成長段階、現在の状況から支援者の見立てを伝えるように心掛けている。	保護者理解が難しいケースもあるため、意思疎通の工夫が必要である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	80%	20%		1人ひとりの支援者の力量を育てるために、研修に積極的に参加し知識をつけ、日々のコミュニケーションから信頼関係を構築し保護者支援に努めていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%		コロナ禍より久しぶりに保護者会を開催することができた。活動の様子をスライドや動画を使用して見てもらったり、グループに分かれて保護者同士で悩みを話し合う時間を設けた。11名の方が参加して下さった。	兄弟間での関わりで悩みを抱えておられるケースもあるため、実体験から話を聞いたり質問できるような機会を保護者会の中で作っていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	80%	20%		怪我が起こった際に、細かく状況を説明できず対応が遅れてしまったケースがあった。支援者間で振り返りを行い、報告の流れを確認。同じことが繰り返されないように行っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		広報誌を毎月発行。子ども達の活動の様子や事業所の紹介、お知らせなどを掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		子ども達には写真や絵カード、文字盤などを用いて選択できるような配慮を行っている。保護者にはメールや電話を活用しながら情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	40%		地域の公民館でお祭りが行われており、一度模擬店のお菓子などをいただいたことがあった。	事業所側から招待する等の動きはとっていなかったため、今後イベントなどを企画する際に招待できるように日頃のコミュニケーションを図っていききたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		避難訓練だけでなく、学習会を行い避難に必要なことなどを〇×クイズで楽しく学ぶことも行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		服薬情報は変更があるたびに随時保護者からコピーやお知らせをもらっており、状況を確認しながら対応方法を徹底している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	80%		毎朝申し送りの際に、ヒヤリとした場面を共有し合い、怪我や事故防止に繋げている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		法人内で虐待防止研修を毎年行っている。利用者理解や支援方法、支援者の連携について学び合い、虐待の芽を摘めるように大切にしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%				